



無事大役を務めることを皆で祈願しました。

迎えた本番

流鏝馬当日の10月21日朝、薄化粧をする前の悠馬くんに話を聞くと、「おはようございます。緊張はありますが、よく眠れました。」というその言葉からは、これまでやってきた努力による自信を感じ取れました。

14時から始まった流鏝馬奉納は、晴れ渡る秋空の下、一人の若武者が相棒「流星号」と共に馬場を駆け抜けました。結果は、9本中4本が的中。練習と本番の環境の違いに戸惑いながらも、見事に大役を果たしました。目標とする父の8本には、届かず悔しさをにじませる悠馬くんを見て祖父の美家男さんは、「何より無事に大役を果たしたことが一番、本当にこの期間で大きく成長してくれた。」と讃えました。

流鏝馬の全ての神事を終えた悠馬くんは、家族や流鏝馬保存会の皆さんと記念の写真を撮る際には、表情も和らぎ、この時に本当のプレッシャーから解放された子どもらしい笑顔をみせてくれました。



写真提供：石川 徳美

大園さん家族



矢を放とうと構える緊張の瞬間



写真提供：石川 徳美

いざ出走